

## 「学校統廃合」進める鶴岡市 文科相は「小規模校の選択肢もある」

### 進む再編統合

鶴岡市では合併後、「複式学級の解消」を図るとして小学校の学区再編統合を進め、平成26年4月に湯田川小・田川小が朝陽4小と統合し、同じく朝日大

し、学校統廃合がもたらす影響について深く考え根本的に再検討すべきです。

### 学校統廃合は過疎化招く

泉小が朝日小に統合し、27年4月に由良小と小堅小、三瀬小が統合し「豊浦小」になりました。今後は、28年4月に大網小が朝日小に統合。同じく五十川小と福栄小、山戸小が温海小と統合。同じく羽黒4小と羽黒3小が統合。平成29年4月に加茂小と大山小の統合が計画されています。

国会では、日本共産党の畑野君枝衆院議員が15日の文部科学委員会で、「地方の小規模学校統廃合は過疎化を招き、政府の掲げる『地方創生』にも反することになる」とただしたのに対し、下村博文文科相は「学校をつうじて地域おこしをしているところというところには、しっかりと応援していきたい」と答弁しています。

掲げていることに言及し、子育て世代の移住をすすめるためにも「学校がそこにあることが重要だ」と述べ、学校がなくなれば人口流出に歯止めがかからなくなる危険に直面すると述べました。

下村文科相は、統廃合だけでなく小規模校を存続する選択肢もあると述べ、「市町村の選択を尊重し、支援していきたい」と表明しました。

### 地域コミュニティの核として重視

畑野氏は、山梨県で同じ人口規模の2市を調べたところ、強引に学校統廃合をすすめているA市では2006年から今年2月までに263世帯も減少し、学校統廃合をしないこととしたB市では1413世帯も増えたことを紹介。

### 文科相、小規模校を支援

畑野氏は「地方創生」で政府が、「地方の人口減少に歯止めをかけることが喫緊の課題」と

統廃合しないより、

する場合の校舍改修費の補助が優遇される仕組みになっていることをあげ、「小さい学校を残して頑張ろうという自治体の支援をしっかりとすべきだ」と求めました。

## 募集

『民報藤島』がまもなく1千号を迎えます。皆さんからメッセージを募集しています。

文科省の小松親次郎  
初等中等教育局長は「地

## 藤島老人クラブ連合会が 鶴岡市の連合会と統合決める



藤島老人クラブ連合会（愛称ふじしま生き生きクラブ。会長・鈴木紀生）の総会が21日、藤島ふれあいセンターで開かれ、「鶴岡市老人クラブ連合会へ統合」等が決定されました。

藤島老人クラブ連合会（愛称ふじしま生き生きクラブ。会長・鈴木紀生）の総会が21日、藤島ふれあいセンターで開かれ、「鶴岡市老人クラブ連合会へ統合」等が決定されました。

藤島老人クラブ連合会とは市町村合併後も県の連合会に直接加盟を続け、市の連合会に入らず独自活動を続けてきました。

しかし、厚生労働省の「老人クラブ活動等事業実施要綱」により、国・県・市の補助を受けるには市町村に連合会は1つという要綱に従う必要があるとの県連と市の指導により、統合を判断したものです。

平成27年度予算案では、単位クラブからの会費を、これまでの平均割8千円、1人当80円から、平均割を廃止し、会員1人当150円に改正することが決

域の活性化を図る方策のひとつとして、子育て世帯の支援を推進することが重要だ。地域コミュニティの核としての学校の役割を重視しつつ、魅力ある学校づくりをすすめる」と述べました。

まりました。

会員30人未満の単位クラブの負担は大きく減りますが、116人の会員がいる中町では逆に増えることになるなど問題も出されました。

一方で、谷地興屋と関根が連合会から抜けるなど会員減少の対策が課題となっています。

### 庁舎の予算削る

ふじしま観光協会（会長・田中壽一）の総会が15日開かれ、6月に開園される歴史公園について、「メインとなる大藤棚の藤が、クレールで運ばれる大藤のはずが、予算がなく小ぶりの藤になった」など話題になり、芝についても高麗芝は3分の1で、残りは種子吹きつけの安あがりでの管理が心配されています。

17日の藤島・名寄交流友の会（会長・小野由夫）の総会では、新年度予算で市の補助金が45万7千円から12万円に大きく減り、「これで5月14日～18日の名寄市訪問団の十分な歓迎ができるのか」など疑問が出されました。庁舎の予算が貧しくなっているのかです。

検討対象校で残ったところは、栄小と長沼小、羽黒1小の3校で、市教育委員会では、「今次計画において統合に至らなかつた小学校は、複式学級の状況が解消しない限り、次期計画（平成28年度以降）においても統合の検討対象校と位置づけられる。」としています。



（写真）質問する畑野君枝衆院議員115日、衆院文科委

